

巻 頭 言

第30号という節目を迎えました。本号刊行の3月も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の社会的な状況にあることでしょう。昨年度、今年度とも、コロナ禍にあって本学科の教育や研究も大きな影響を受けながらの取り組みが続いております。

同様に、社会福祉の現場で仕事をしている卒業生・修了生の皆さまにとっても、コロナ禍で直接に利用者や家族、住民と会う、面談する、話し合う、レクリエーションなどを中止せざるを得ない、人数制限を設ける、オンライン導入などをしながらの再開というように、コロナ前のようにはいかないが、創意工夫をしながら取り組まれていることでしょう。

さて、大学教育においても社会福祉の現場においても、新型コロナウイルス感染防止という社会的な要請の中で、パソコンやタブレット、モニターなどのICT（情報通信技術）を導入し、それが定着してきたことは紛れもない事実であります。

本学科では、昨年度のソーシャルワーク実習は完全オンライン実習、今年度は2週間を現場での実習、2週間をオンライン実習で行いました。授業は、基本は対面授業であったが、学生は対面受講またはオンライン受講を選択できたため、教員はハイフレックス形式（教室で授業を実施し、同時にその授業をオンライン配信）による授業を実施しました。このように大学教育、なかでも実習教育において、オンラインを導入したためICTを身近に受けとめるきっかけとなり、ICT先進国の中国はどんな状況であるか関心が強まりました。

そこで、第45回の大正大学社会福祉学会では、「ポスト・コロナの地域を見据える社会福祉実践とICT活用」というテーマとなりました。基調講演は、郭娟先生（華東師範大学）による「コロナ禍における中国のソーシャルワークを踏まえた実習教育」をお願いし、その翻訳を本学科教員の金潔先生が担当してくださいました。隣国・中国から、大いに学んでいただきたく存じます。さらに、学会大会テーマに合わせて、医療ソーシャルワークにおけるICT運用に関する実践報告も掲載しましたので、各人の立場で、ICT活用を検討する機会となりますことを期待しております。

さて私自身もコロナ禍にあって、ICT導入をせざるを得なくなりました。まず、大きな変化の1つは、授業資料についてです。コロナ前には、授業で使用する資料や記入用紙などを印刷、配布していましたが、その必要がなくなりました。学生が資料を持参しなかったことへの対応も、不要となりました。例えば、URLを指示したり、PDFにして資料作成し、ポータルサイトを使用して提供します。提出物もポータルサイトを使用して、提出するといった具合になります。あっという間に、ペーパーレスな時代ともなりました。コロナ禍でなければ、こんなに短期間で進むことはなかったと実感します。

最後に、社会福祉のあり方を常々考えさせられるデンマークの福祉分野へのICT導入の考え方にふれます。福祉業務は、「温かい手」（職員が利用者と直接触れあう、対面する直接業務）と「冷たい手」（記録や連絡などの間接業務）があり、ICT導入は、この間接業務に係る時間を軽減し、「温かい手」である直接業務の時間割合を増やすために取り組んだのでした（『月刊福祉』2021年2月号、全社協、15～20頁参照）。

社会福祉分野にICT導入を検討する意味は、適切な労働時間を保持することであり、そのため間接業務である「冷たい手」に係る時間の割合を軽減していくことです。この間接業務にICTを活用し、社会福祉専門職が専門性を活かす直接業務「温かい手」に係る時間の割合を増やすためであることを忘れてはなりません。

2022年3月15日

大正大学社会福祉学会副会長

宮崎 牧子

鴨台社会福祉学論集 第30号 目次

巻頭言	宮崎 牧子	
I 基調講演		
コロナ禍における中国のソーシャルワークを踏まえた実習教育	郭 娟 金 潔	1
II 特集論文・実践報告		
医療ソーシャルワークにおける ICT 運用例の報告	今尾頭太郎	12
III 研究論文		
訪問看護師と連携するための訪問介護員の行動に対する「介護を通じた利用者理解」の影響 ～訪問介護員の援助力及び省察的实践との比較～	須加 美明	21
IV 研究ノート		
内科的疾患と精神障害のあるグループホーム利用者のセルフケアを促進する要素 一日中活動の場での支援課題と支援過程に着目して	鈴木 孝典	31
精神障害のある人のピアアドボカシーの機能と役割 —ニューヨーク州「Baltic Street」のインタビュー調査を通して—	坂本智代枝 田中喜美子	43
V 大学院博士・修士論文抄録		53
VI 学部卒業研究の論題一覧		
令和3年度 卒業研究論題一覧		55

Ⅶ 鴨台社会福祉学論集諸規程

発行要領	58
投稿規程	59
編集規程	60
編集委員会規程	61
査読規程	62
査読フローチャート	63
査読書式	64
リポジトリ規程	66

Ⅷ 大正大学社会福祉学会会則

編集後記	坂本智代枝
------	-------